

# 令和3年度ウィリング横浜事業実績評価結果

| 事業                         | 項目                    | 市評価  |
|----------------------------|-----------------------|--|
|                            |                       | 総評   |
| 1 施設の管理運営・貸出業務             | (1) 施設の目的に沿った管理運営     | <p>コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用定員の削減や新規利用受付停止など感染症の状況に応じた対応を行った。その影響もあり、稼働率は目標を達成できなかった。しかし、利用者への迅速かつ細やかな対応や、施設内の感染症防止対策の実施については評価できる。</p> <p>コロナ後に向けては、稼働率に関するさらなる分析と、それに基づく改善策の検討を期待する。</p>  |
|                            | (2) 建物・設備等の管理         | <p>広報については、多様なツールを活用して取り組んでいる。また感染症予防の周知にも力を入れた。</p> <p>今後も様々なツールを活用して、新たな利用団体・利用者の拡大に向けた広報に取り組んでいただきたい。</p> <p>建物・設備の管理のうち、修繕については、長期的な計画に基づく修繕と随時の修繕に対応している。</p> <p>また、職員による施設設備の点検結果や利用者アンケートを踏まえて備品を更新するなど、把握したニーズ等に基づく改善が実施されている。</p> |
|                            | (3) 利用者ニーズの把握、苦情対応    | <p>清掃や警備を含む保守管理については、施設運営に支障なく実施できている。感染症予防のため、利用者に対して研修室のレイアウトを提案するなど、施設の特性を踏まえた取り組みを行っている。</p>   |
|                            | (4) 職員体制・育成           | <p>職員体制・育成については、「職員配置計画」及び「職員育成計画」に基づき、適切な配置及び研修が行われている。</p> <p>コロナ感染症対策のための施設運営の変更にも柔軟に対応し、感染による支障もなく施設運営を円滑に継続できた。</p>   |
| 2 人材育成事業（福祉、保健に関する研修会等の開催） | (1) 研修会等の開催           | <p>感染症対策を実施しながら、開催方法を工夫した。</p> <p>また、それらの実績を通して今後の研修の開催手法についても検討を進めている。</p> <p>研修全体で定員を上回る応募率となり、ニーズの高い研修を企画している。</p> <p>アンケートによる研修の満足度も高い結果となっている。またアンケートを踏まえて企画した研修も実施した。</p>  |
|                            | (2) 研修委員会の開催          | <p>法人・事業所等の研修ニーズを把握し、研修面での支援も実施した。</p> <p>ハマ・キャリネットからの申込、参加事業者数も増加している。</p> <p>これらの取組を通して、人材育成のための研修等の取組や効果が広く波及していくことが期待できる。</p>  |
|                            | (3) 福祉保健活動従事者の研修ニーズ把握 | <p>研修委員会を適切に開催・運営した。委員からの意見を反映した研修会を開催したほか、研修の企画内容や開催手法、評価等について意見を聴取し、研修計画等に反映させている。</p> <p>福祉保健活動従事者の研修ニーズ把握のための施設訪問を実施し、現場からの意見の収集を行った。その中で、施設に対して研修に関するアドバイスをを行うなど、研修支援としても効果を上げている。</p>  |
| 3 よこはま福祉・保健カレッジ            | よこはま福祉・保健カレッジの運営      | <p>連絡会議の運営、カレッジ講座が実施できている。</p> <p>カレッジとの連携強化により、研修の広報の拡大や人材育成の課題の共有、各機関の連携促進等を期待する。</p>  |

## 令和3年度ウィリング横浜事業実績評価結果

| 事業                        | 項目             | 市評価  |
|---------------------------|----------------|--|
|                           |                | 総評   |
| 4 情報収集・提供事業               | 情報資料室の運営       | 蔵書の収集管理や展示の工夫など適切に運営するとともに、企画展の実施や多様な媒体による広報などを行っている。<br>一方で、コロナウイルス感染症の影響から、利用者数は回復していない。情報資料室はウィリング横浜の特徴的で貴重な機能であり、さらに有意義に利用してもらうため、利用者のニーズの把握や、利用時間帯、利用状況分析を強化し、利用率の向上に取り組んでいただきたい。 |
| 5 人材確保・定着支援事業             | 人材確保・定着支援      | 短期で具体的な成果を上げることの難しい分野であるが、様々な機会をとらえて人材確保・定着支援に係る事業を実施するとともに、事業の見直しも行っている。  |
| 6 調査研究事業                  | 調査研究事業         | 支援対象となる自主研究団体の減少が続いているが、「福祉保健に関する調査研究」は、ウィリング横浜の機能の一つである。<br>指定管理者の自己評価においても事業内容の整理の必要性が認識されているが、これまでの手法にとらわれることなく、事業内容や手法の見直しを検討していただきたい。   |
| 7 ウィリング横浜の特色を生かした独自性のある事業 | (1) こころの相談室の運営 | 「こころの相談室」の運営については、利用率向上のため多様な媒体での広報活動に取り組んでいる。人材の定着支援のために有意義な事業であり、さらなる周知に向けた取り組みを期待する。  |
|                           | (2) その他        | 交流スペースの活用については、コロナウイルス感染症拡大防止のため活用策の実施は難しい面があったものの、福祉の仕事の動画放映等に係る細やかな改善を実施した。今後、さらなる活用策の検討を期待する。   |
| その他考慮すべき取組等               |                | 指定管理業務外ではあるが、介護支援専門員実務研修については、他の研修機関の減や資格試験合格者数の増に対応して予定を上回る受講者を受け入れ、横浜市の福祉人材確保に貢献した。  |